

道の学生成人目標の成り立ち

教祖百十年祭学生おぢばがえり大会スローガン

―― 教祖百十年祭学生おぢばがえり大会」が開催された。この大会に向けて、教祖百十年祭の旬に、一人でも多くの学生がおぢばに帰り、少しでも成人した姿を教祖にご覧いただきたい。そのような思いで当時の先輩方は必死に活動を展開していた。しかし、教祖百十年祭を迎えるにあたって、**年祭**という言葉に含まれる意味をもう一度見つめ直す必要があった。年祭は、一人ひとりが努力した分だけ成人しやすい旬だと聞かせていただく中で、**学生おぢばがえり大会**」の持つ重要性を考え、この大会を機に私たち学生は、親神様の思召にお応えできるよう、成人の道を歩まなければならないと第三十二期天理教学生会は考えた。しかし、そうなるために具体的に何をすれば良いのか分からない。そんな時、道の学生の目指すべきことは、**天理教学生会総会・春の集い**」で真柱様が私たち学生に直接下さるお言葉にあると考えました。そこで、これまでのお言葉の中で何度も繰り返し学生に対して求められていることを見つけ出したのです。

それが **生かされていることに感謝しよう**」 **お道の素晴らしさを感じよう**」 **進んで教会につながる**」の三つだったのです。

一つ目は、**親神様に生かされ、生きていることに感謝する**」ということです。自分たちが、毎日生活の中で当たり前のように使っている体は親神様からの **かしもの**」であり、私たちからすれば **かりもの**」であるとかかりやすくお教え下さっています。そして、私たちに、**絶えず生かされていることに感謝し、それを喜びに変えていく大切さ**もお教え下さったのです。

二つ目は、**「にをいがけに励む**」ということです。自分たちがお道を信仰する中で味わった喜びを一人でも多くの人に伝え、共に陽気に生きていくことができるように、先ず自らが働きかけることの大切さや、教祖の道具衆としての自覚を持って、日々通らなければならないとお教え下さいました。

三つ目は **教会を若者の力で賑やかにする**」ということです。若者が教会に足を運んで、明るく陽気な教会にしてもらいたい、そして教会の御用の上にも何からでも役立つ者に育ってもらいたいと望まれているのであります。

これらのお言葉を振り返るとき、自分たちが一つひとつを、頭の中では分かっているけれども実際にどれだけ実践できているかどうか、疑問を抱くのであります。そう考えた時、教祖百十年祭の旬に、この親の思いを実行していくことが大切なことだと先輩方は考えたのです。それも、一人や二人ではなく、全ての道の学生が一手一つに心を揃えて頑張ることが大切だと考え、**教祖百十年祭学生おぢばがえり大会**」のスローガンとして訴えていこうということになりました。

成人目標として

以上のような経緯で **教祖百十年祭学生おぢばがえり大会スローガン**」ができたのですが、このスローガンを教祖百十年祭学生おぢばがえり大会」だけのものとどめず、より多くの道の学生に伝え、共に実践していかねければならないと考えました。そこで、第三十三期天理教学生会においてこのスローガンを **道の学生成人目標**」と定めました。

―― 中略――

そして、**立教百七十年春の学生おぢばがえり**」において真柱様は、

「この **生かされていることに感謝しよう**」 **お道の素晴らしさを伝えよう**」 **進んで教会につながる**」という成人目標は、成人するための目標であります。**をや**の思いである陽気ぐらしを作り出すために、その目的に向かい、今を精一杯生きることあります。目指すところがどれだけ遠くにあっても、その目的を目指して進むことが大切なのであります。」

と諭され、

成人目標を念頭に、成人を望まれる親神様、教祖の思召にそえるような人になるように、学生という時代を十分に生かして、勇んで歩んでくれますことを希望して挨拶と致します。」

この親の思いに、今こそ心を一つに揃えようではありませんか。そのためにも私たち道の学生全員が **生かされていることに感謝しよう**」 **お道の素晴らしさを伝えよう**」 **進んで教会につながる**」の成人目標を心に置き、日々実践し、世界の友にをやの思いを伝えていきましょう。